



新編集委員長からご挨拶

横谷 篤至[†]

Inaugural Remarks from Editor-in-Chief

Atsushi YOKOTANI[†]

めっきり秋らしくなって参りました。

レーザー学会編集委員会前委員長の岡田先生の突然のご退職に伴い、この6月における委員の交代・新体制の発足に合わせまして、今期の委員長を仰せつかりました。何分突然のこととごぞいまして、まだまだ慣れておらず不手際も多々あることかと思いますが、よろしくお願い致します。

本誌「レーザー研究」は、言うまでもなく、レーザーに関する原著論文、解説論文、国際会議報告等の発表の場を皆様にご提供すると共に、学会・会員間の情報交換の役立つ記事をのせる定期学術刊行物であり、我々編集委員会の使命は、本誌の内容を充実させ、毎月滞りなく会員の皆様のお手元に届けることができるよう種々の編集業務をこなすことでもあります。

本誌は、解説特集・小特集(レーザー解説)を通じてレーザー技術の幅広いトピックスを包括的に扱うことで、細分化された専門分野において最先端の研究を行っておられる読者の皆様にとって分野外の方でもよく分かるようレーザー技術開発の現状・進展をご紹介させて頂いて参りました。これは、他学会誌に先駆けて本誌が特に力を注いで来たところでもあります。加えて、近年においても、レベルを維持したままオリジナル論文(レーザーオリジナル)の投稿から掲載までの短縮努力、広範囲に様々な記事を取り上げることの出来る「レーザーフラッシュ」など多彩な内容を盛り込んだ会誌として機能出来ていると思われませんが、これはひとえに会員の皆様の多大なご協力によるところであります。

さらに、その一方で、あまり表にできることは少ないのですが、内容以外に、編集作業には重要な使命があり、本誌を手にとった会員の皆様が読みやすいような誌面となるよう継続的な努力もつづけております。振り返ってみますと、すべてがアナログの職人作業だった時代においても、本誌では版組に写植を採用することで、なめらかで整ったピッチの文字や階調のよいはめ込み写真など、同時代、同規模の学会が提供する会誌のなかでは常に高品質の刷り上がりを目指して来ました。出版業界の電子化の波に伴って、組み版作業が電子化され始めた頃、一時期、多くの学会で自前で組版するようになった時代でも、本誌の誌面はそれまでの商用印刷と見分けがつかない品質を保っていたと思います。しかし、さらに時代が進んで現在、すでに出版業界は大きく変わりつつあり、学会誌の完全電子化や全カラーページ化されたものも多く見られるように時代になりました。こうなりますと、今後はこの手の議論は「単なる見やすい紙面作り」という小さなものではなく、会誌の発行形態にまで影響を与える大きな議論につながっていくかもしれません。これらに関する継続的な検討は編集委員会としますます重要となっていくでしょう。

また、最近の若手・女性研究者の増加という時代の流れのなかで、女性研究者が多く参加しているデザインやアート分野をあつかった専門委員会が発足したと聞きました。現時点ではその活動の詳細は把握できておりませんが、今後レーザー研究や年次大会の分野構成に影響を与える大きな流れであると感じています。

さて、特集企画やその他の内容にしろ、体裁にしろ、本誌を受け取られた会員の皆様にどれだけご満足戴けているのかの声を聞かせることは編集委員会にとってとてもありがたいことです。レーザー学会ホームページでは「是非ご意見を」とご意見を募っておりますが、必ずしも会員個人がお気軽に要望を出せる仕組みになっていないように感じています。そのような仕組み作りについても早急に検討していこうと考えております。特に堅苦しく考えることなく、「こんな特集があれば良いのに。」「何年か前に掲載されたあの特集のその後が知りたい。」「最近あった特集では、こういう分野が抜けていたと感じた。」「全体はどうなるかわからないが、こんな報告が含まれたものを考えて欲しい。」「今更聞けないこんな基礎的な内容のレクチャーが読みたい。」など、漠然としたものから具体的なものまで、何でもお寄せいただけましたら検討いたします。今後とも会誌「レーザー研究」のご愛読をよろしくお願い致します。

[†] 宮崎大学 工学部電子物理工学科(〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1)

[†] Department of Applied physics and Electronic Engineering, University of Miyazaki, 1-1 Gakuen Kibanadai Nishi, Miyazaki 889-2192